

客観的な視点で、街の魅力を再発見！
イベントでの集客増加につながった



立川北口大通り商店会

(立川市)

活用した事業

- ・商店街パワーアップ作戦
- ・商店街リーダー実践力向上塾

柔軟な協力体制と発想力で 街の目玉イベントを企画

近年「アニメの街」としても知られるようになった立川。立川北口大通り商店会は近隣のあけぼの商店街振興組合、柳通り商店会と一体となって、様々な企画を展開している。その一つが、毎年開催される「立川バル街」。2019年以降、コロナ禍で3年間開催することができなかったが、2022年9月、念願の再開が叶った。長い空白があったが、前回の49店舗を上回る62店舗が参加。会長の北島宏晃さんは、「SNSで開催の告知をするやいなや、多くの人から歓びの声が届きました」と、笑顔で振り返る。

「バル街」とは、食べ飲み歩きイベントのこと。参加者は事前に購入したチケットで、参加店が提供する特別メニュー1品とドリンク1杯を交換でき、これらを楽しみながら街を巡るといったものだ。

商店街リーダー実践力向上塾でホームページを分析、商店街の取組を幅広く発信

「立川は再開発が進み、大分様相が変わりつつあります。これから街全体を盛り上げるために何をすればいいのか、というのは長年のテーマでした」集客につながるイルミネーションや、バル街などの開催に加えて、立川を舞台にしたアニメがあることに着目し、アニメ好きの人たちが楽しめるイベント「立川あにきゃん」を企画。「これは、地元にいると見過ごしてしまう街の魅力の再発見でした」と北島さん。商店街リーダー実践力向上塾に参加した際には、まちのブランディングに関する専門家やITの専門家の意見を参考にホームページをリニューアルし、SNSと連携することで立川のイベントやまちづくり、商店街の活動を新しい顧客層へ届ける取組を続けている。

立川という街の持続的な発展と 商店街運営のために

商店街リーダー実践力向上塾では商店会の今後についても意見交換を行った。その中で出たキー



立川北口大通り商店会の会長を務める北島宏晃さん

ワードは「三位一体」だ。例えるなら商店街運営や活性化に向けては、ヒト（店主）・モノ（事業）・コト（集客向上イベント等）の3資産を向上させていくことが重要である。

「私たち立川北口大通り商店会だけではイベントのマンネリ化防止や商店街の後継者育成、新たな消費行動やシステムへ対応していくことはとても大変です。しかし一つの商店会ではうまくいかない場合でも、あけぼの商店街振興組合や柳通り商店会のメンバーと、それぞれの視点や知恵を出し合うことによって、当初は思いもよらなかった発想が浮かんで、問題の解決につなげていけるのではないかと考えています。3商店街が互いに刺激し合い協力しながら、チャレンジを恐れず果敢に問題解決に取り組み立川全体を盛り上げる活動を続けていきたいです」と今後の抱負を語った。



08

立川北口大通り商店会

立川市曙町

<https://www.annex-tachikawa.com/kitaguchi/>

